

# 感染症対応マニュアル

## 1 平常時の感染対策

**日頃の十分な健康管理が、異常の早期発見・早期治療・2次感染予防につながる！**

### 児童生徒の健康管理



- (1) 健康観察
  - ・教育活動全体を通じて実施する。
  - ・朝の健康観察は、施設外からの感染源の侵入を防ぐ重要な機会であることから、健康観察簿で健康状態を確認する。
- (2) 情報の共有化
  - ・健康観察での健康状態の情報により、個人だけでなく、学校全体の状態を把握する。
  - ・全職員で情報を共有し、感染症流行の早期発見・蔓延防止に役立てる。
- (3) 保健調査
  - ・感染症の既往歴や予防接種等、児童生徒の保健調査を行う。

### 職員の健康管理



- (1) 自らの体調管理
  - ・自分が学校に感染源を持ち込む可能性があることを十分認識し、日頃から体調管理に努め、早めの受診・休養を心掛ける。
- (2) 既往歴等の把握
  - ・自分の感染症の既往、予防接種歴等を把握し、自分がどのような感染を媒介する可能性があるか認識しておく。
  - ・職員の予防接種については、自分を守るとともに、児童を守ることを考え、積極的に受けることが望ましい。
- (3) 健康診断の受診
  - ・定期の健康診断は必ず受け、異常がないかを確認する。

### 周辺地域の感染症発生状況の把握

- ・地域の感染症発生状況を情報収集し、学校内で発生する可能性が高いかどうかを判断するとともに、学校における感染症発生予防対策を講じる。



## 2 基本的な対策（標準予防策）

**すべての人の血液・体液・排泄物等は「感染症のおそれがある」とみなして対応する！**

### 手洗い



手首の上まで、石けんを泡立てて、流水で洗浄する。30秒以上かけないと菌量を減らす効果は低いので、状況に応じ、速乾性消毒薬を使用する。

### 咳エチケット



咳やくしゃみが出る場合は、マスクを着用する。マスクがない場合は、ハンカチやティッシュ、肘の内側で口を覆い、飛沫が飛ばないようにする。

### 衛生管理



感染症が発生した場合、状況に応じて、机や椅子、ドアノブ、手すり等のアルコール消毒を行う。（ノロウイルスの場合は、塩素系消毒剤）

### 汚物処理

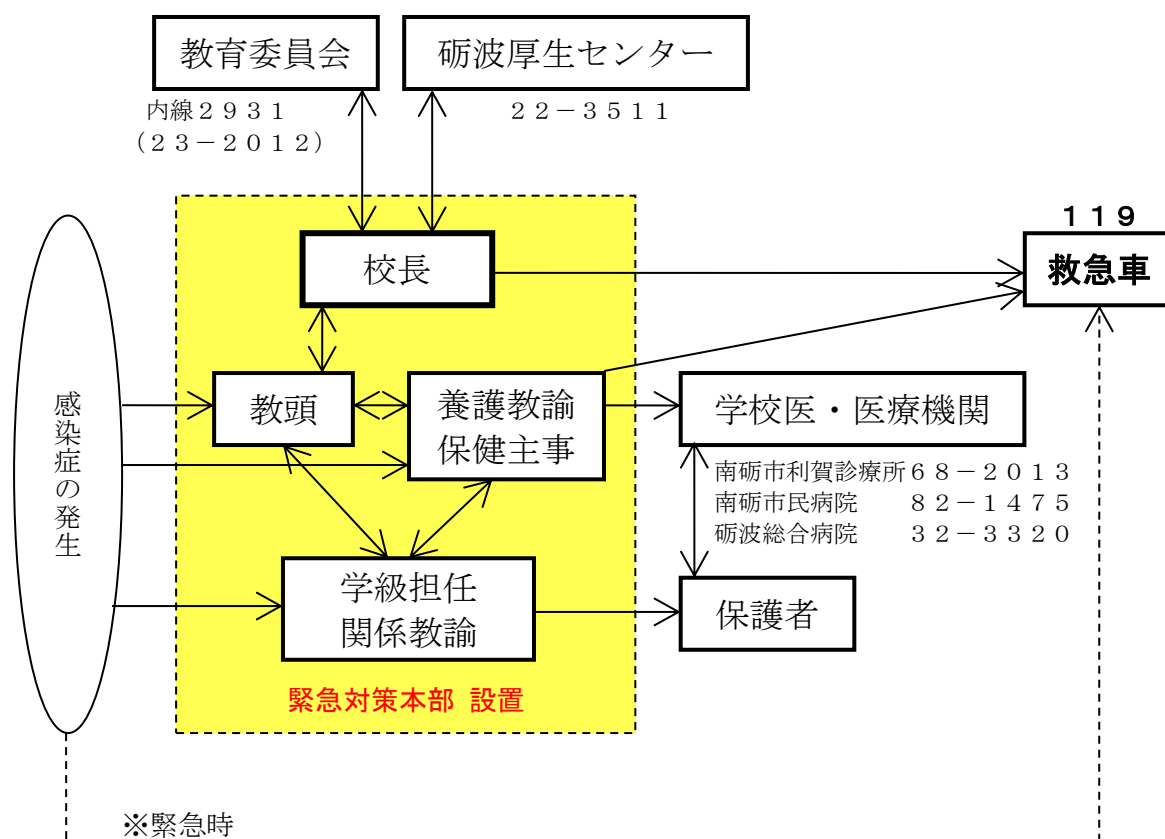


必ず手袋とマスクを着用し、処理中は窓を開け、十分に換気をする。処理後は、汚物や使用した手袋等をゴミ袋に入れて密封し、燃えるゴミに出す。処理後は、手洗い・消毒を必ず行う。

### 3 感染症発生時の対策

		養護教諭	担任	管理職
① アセスメント	情報収集	○全校児童生徒の健康状態の把握 ・欠席者数、欠席理由 ・登校者の学級・学年別の健康状態 ・保健室の来室状況 ○地域の状況把握 ・近隣校の状況 ・地域の状況（感染症情報システムの活用、厚生センター等からの情報）	○健康観察の徹底 ・児童の健康状態 ・欠席者数、欠席理由 ・登校者の健康状態 ・家庭との連絡	
	情報の整理	○情報を一覧表にまとめ、データ化する ・欠席者の氏名 ・具体的な症状 ・学年の児童生徒の状況		○発生状況の掌握 ○教育委員会への報告
	検討	◆感染症対応会議の開催（校長・教頭・教務主任・保健主事・養護教諭・担任）		
		○情報・データを基に対応策を検討 ・出席停止、臨時休業、授業の短縮 ・措置を実施しない場合は、欠席者や来室者の変化に注意しアセスメントを継続 ・症状がみられる児童生徒への対応 ○学校医との連携 ・予防措置に対する指導・助言 ○保護者への連絡方法 ・緊急メール、文書通知、連絡網		
② 措置の実施	◆教職員の共通理解（打合せ）と対応の実施			
	○関係機関と連携し、発生原因・感染経路の把握 ○消毒を含む環境衛生管理 ○緊急時の連絡体制の周知と徹底 ・緊急連絡先、連絡網、地域医療機関の種類と場所	○児童生徒への保健指導 ・登校者：集団指導、欠席者：電話による指導 ・プライバシーに配慮 ○家庭への情報提供と保健指導（通知・連絡）	○保護者への通知 ○教育委員会、厚生センターへの報告 ・臨時休業時は、電話報告、FAX報告を行う。 ○出席停止の指示 ○臨時休業届の提出 ○マスク対策	
③ 事後措置	◆感染症対応会議の開催（校長・教頭・教務主任・保健主事・養護教諭・担任）			
	○再度、措置する必要性の有無を検討 ・解除か延長かを決定			
	○教育委員会への報告書提出 ○日本スポーツ振興センター手続き ・学校給食や課外活動等による食中毒や感染症の発生時	○回復期の健康管理・保健指導 ○心理的リハビリテーション（心的外傷、いじめの予防）	○教育委員会への報告 ○記録の整理・保管	

#### 4 校内対応組織図



※ 感染症発生時の場合には、「令和4年度学校保健・学校安全関係の手引き」に基づき、適切に対応する。

- ・第一種の感染症、結核、腸管出血性大腸菌感染症、食中毒（個別・集団）、集団感染（疑い）の発生時は、学校医、南砺市教育委員会、砺波厚生センターに第一報（電話報告）を入れる。
- ・第二種（結核を除く）・第三種（腸管出血性大腸菌感染症を除く）の感染症発生時は、南砺市教育委員会に初発報告（電話）をする。

#### 学校において予防すべき感染症

- 第一種 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ  
新型インフルエンザ等感染症、指定感染症（新型コロナウイルス感染症）及び新感染症
- 第二種 インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎
- 第三種 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症